



2025卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

2024年4月

株式会社キャリアタス / キャリタスリサーチ

調査概要

2025年卒・理系学生の4月までの活動状況や志向に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

<目次>

1. インターンシップ等*の情報を探した時期	P 3
2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと	P 4
3. インターンシップ等参加状況①（参加類型）	P 5
4. インターンシップ等参加状況②（参加時期、社数）	P 6
5. インターンシップ等参加状況③（プログラム内容）	P 7
6. 序盤の志望業界	P 8
7. 第1志望業界になったきっかけ	P 9
8. 就職活動に関する情報の入手先	P10
9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P11
10. 「面白そう」と感じる仕事	P12
11. 推薦の利用予定	P13
12. 工場見学・研究所見学等の状況	P14
13. 就職活動量	P15
14. 内定率の推移	P16

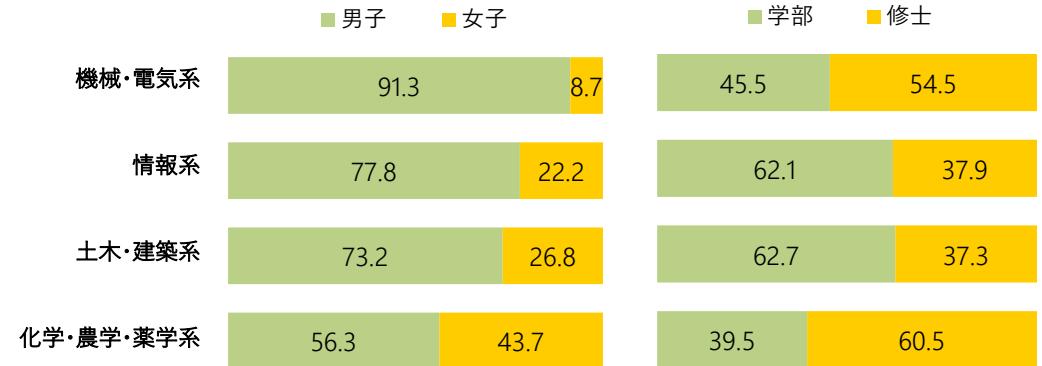
<調査概要>

調査対象 : 2025年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生
 サンプルング : キャリタス就活 学生モニター2025
 調査方法 : インターネット調査法

	第2回調査	第3回調査	第5回調査	第6回調査	インターンシップ等特別調査
調査時期	2023年11月	2024年1月	2024年3月	2024年4月	2024年3月
回答者数	1,053人	1,033人	1,175人	1,210人	717人
理系全体	432人	408人	446人	485人	296人
機械・電気系	100人	87人	95人	100人	57人
情報系	66人	67人	77人	94人	53人
土木・建築系	57人	50人	57人	62人	40人
化学・農学・薬学系	161人	160人	166人	172人	118人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

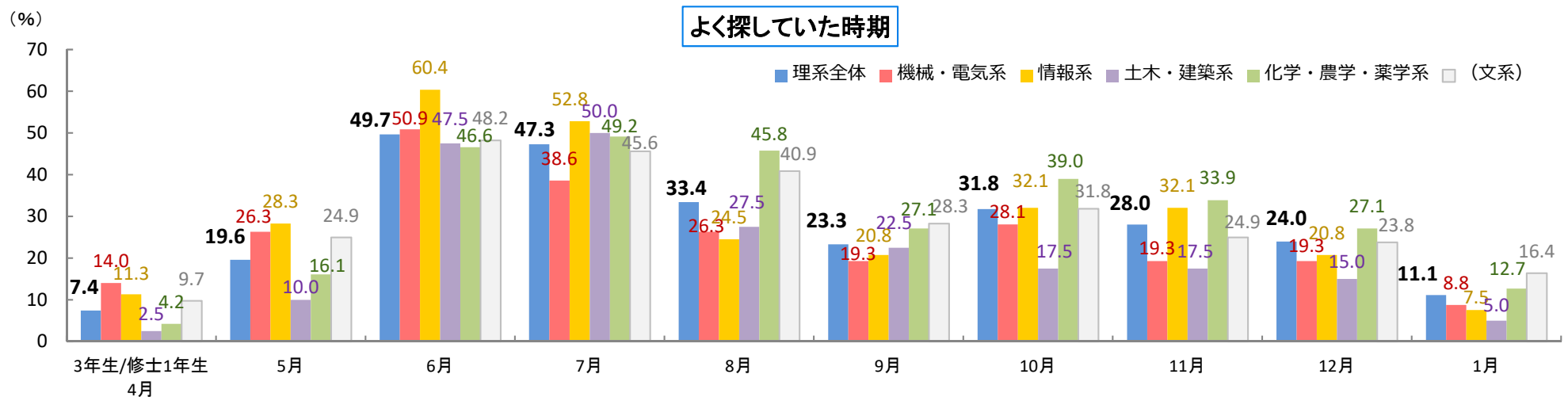
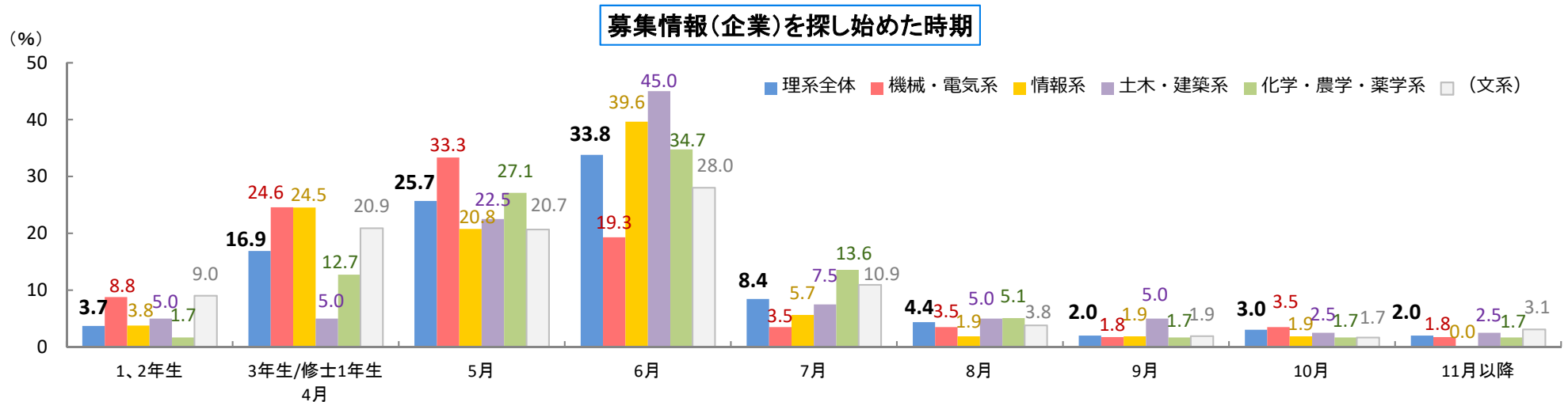
(モニター構成比：%)



* 就業体験を含まない1日以内のプログラムも含めて調査

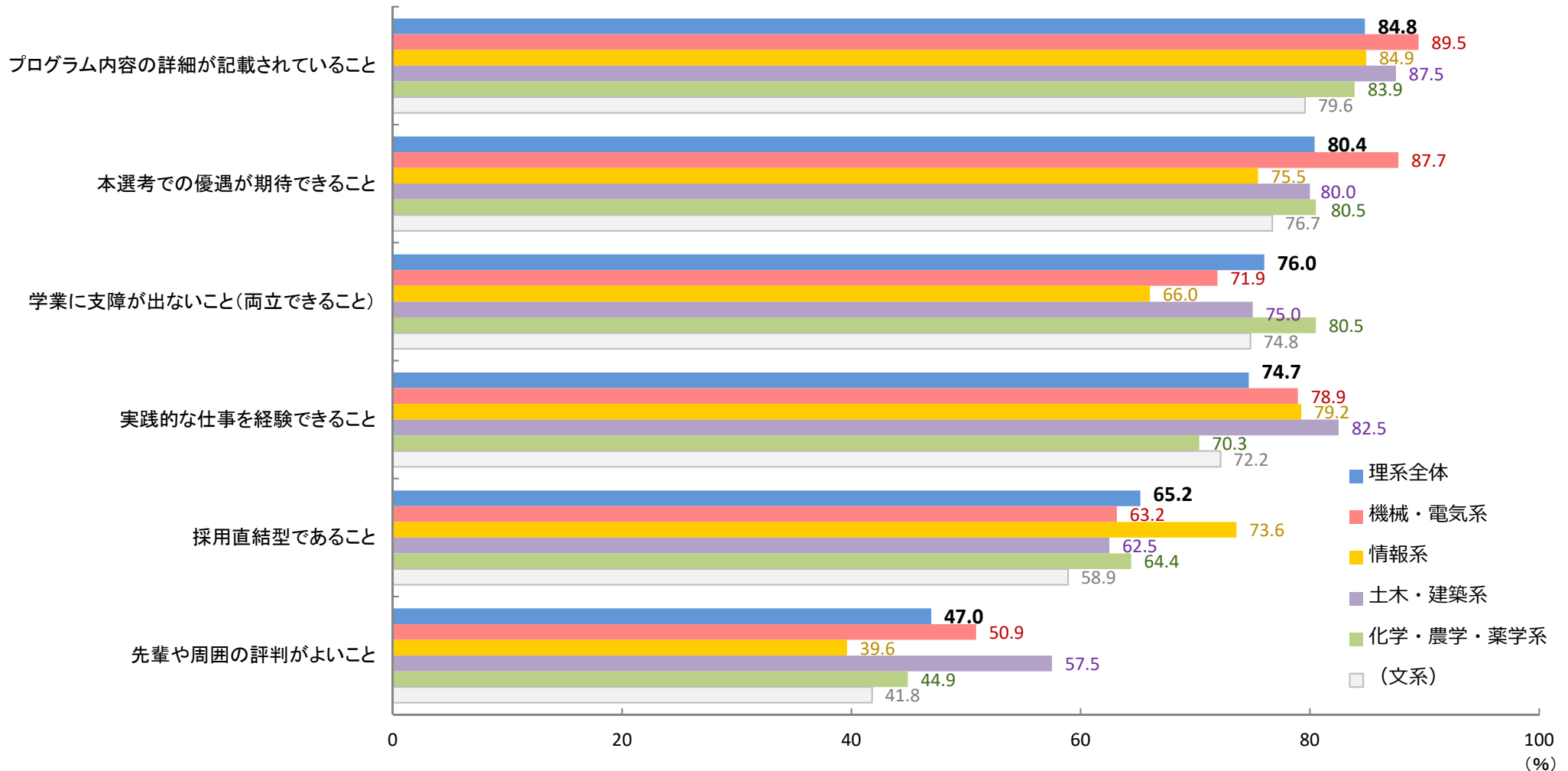
1. インターンシップ等に関する情報を探した時期

- 探し始めた時期は、理系全体では3年生/修士1年生の6月が最多。機械・電気系は他の選考分野より早く、5月が最多で4月も多い。
- よく探していた時期は、理系全体で6月・7月が5割近くに上り、夏季プログラムの情報収集が盛んだった様子が表れている。
- 情報系や化学・農学・薬学系は10月以降も高く推移しており、秋や冬のプログラムを探す学生も比較的多かったことがわかる。



2. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと

- 応募時に重視した点は、理系全体では「プログラムの詳細が記載されていること」が最多（84.8%）。機械・電気系で高く、内容を重視する傾向。機械・電気系は「本選考での優遇が期待できる」も他の専攻学生より高い。
- 土木・建築系は「実践的な仕事を体験できること」が他より高く（82.5%）、情報系は「採用直結であること」が高い（73.6%）。

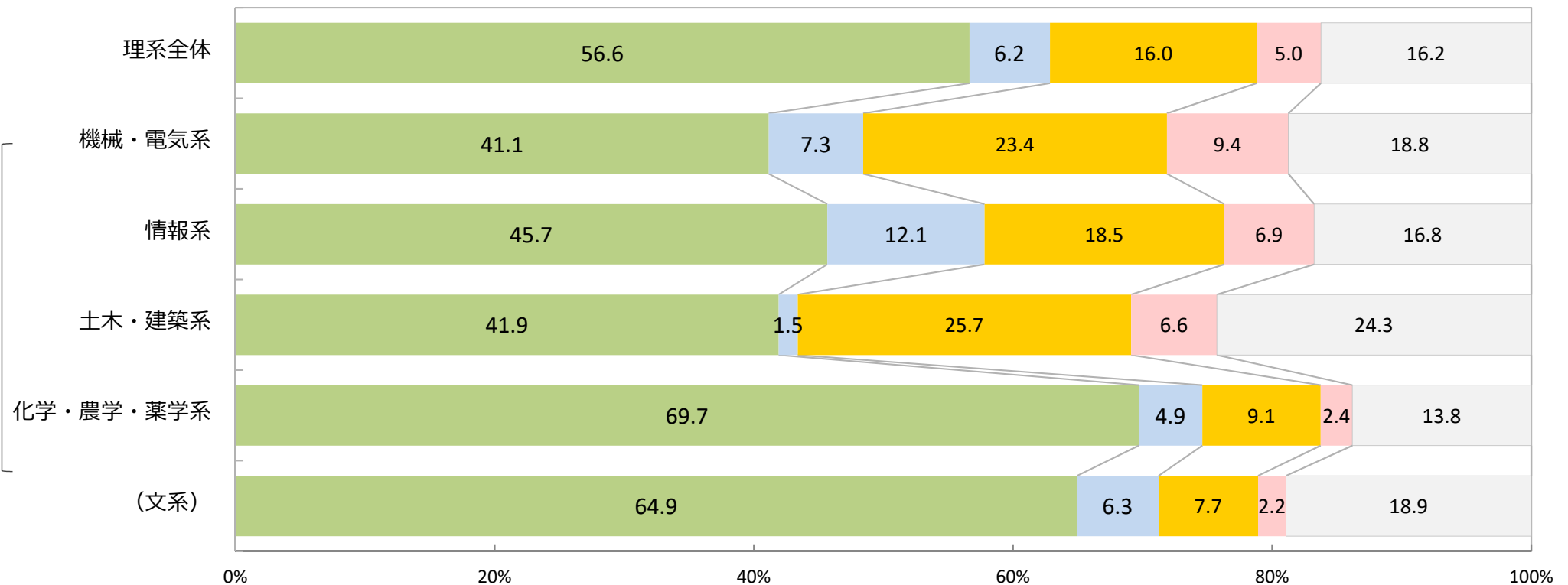


3. インターンシップ等参加状況①(参加類型)

- 「タイプ1：オープン・カンパニー」への参加が過半数を占めるが（56.6%）、文系に比べ「タイプ3：インターンシップ」の割合が高い（計21.0%）。
- 機械・電気系、土木・建築系においては「タイプ3：インターンシップ」の割合は3割を超える（計32.8%、計32.3%）。
- 化学・農学・薬学系は「タイプ1：オープン・カンパニー」が約7割を占める。文系学生と近い傾向を示している。

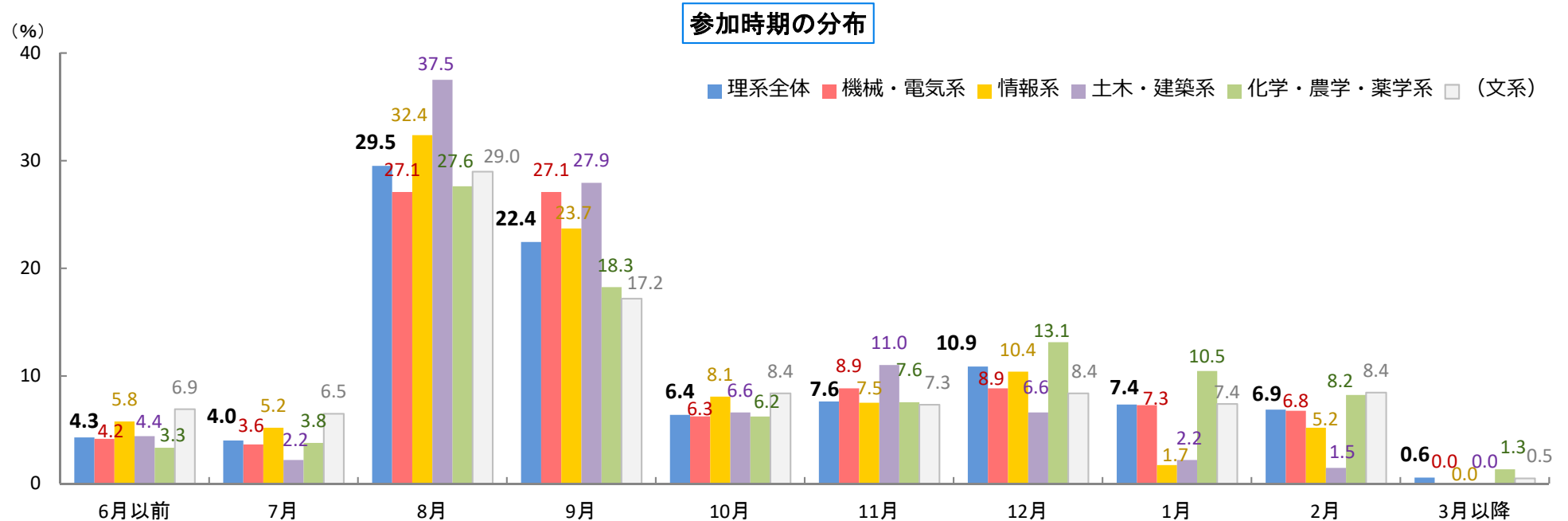
参加プログラムの類型(分布)

- タイプ1：オープン・カンパニー
- タイプ2：キャリア教育
- タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ（5日間以上）
- タイプ3-②：専門活用型インターンシップ（2週間以上）
- どのタイプに分類されるかわからない、その他



4. インターンシップ等参加状況②(参加時期、社数)

- 参加はいずれの属性も8月・9月の夏季休暇中に集中。特に土木・建築系で夏の参加割合が高い。化学・農学・薬学系は秋以降も比較的多い。
- 参加社数は文理差が大きく、文系が13.1社に対し理系は8.9社。理系の方が4社以上少ない。
- 理系の中では化学・農学・薬学系と情報系が比較的多く、それぞれ9社台（9.4社、9.3社）。



インターンシップ等の応募社数・参加社数

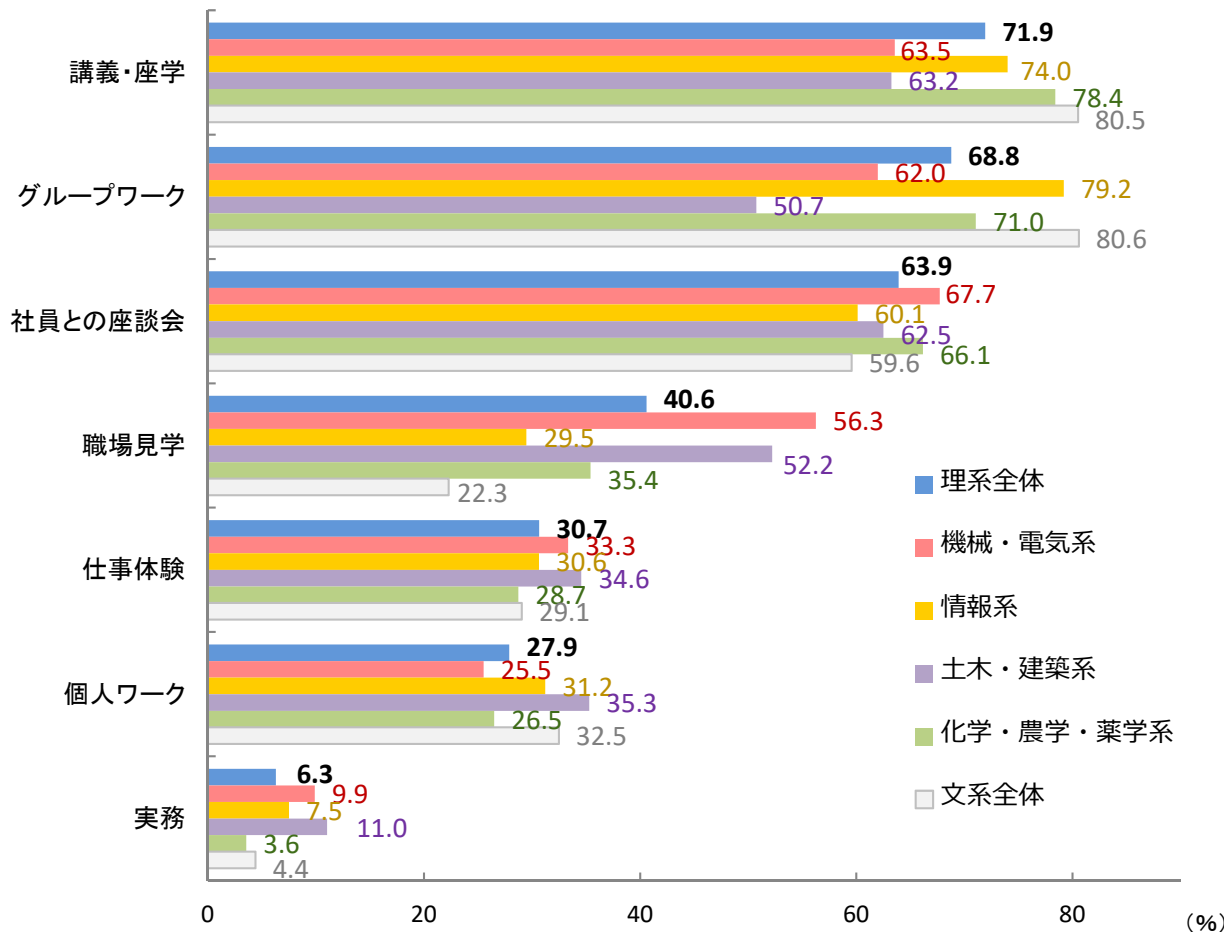
	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	(文系)
インターンシップ等応募社数／平均	15.4	12.3	15.4	9.7	19.1	21.1
インターンシップ等参加社数／平均	8.9	7.9	9.3	7.4	9.4	13.1

(社)

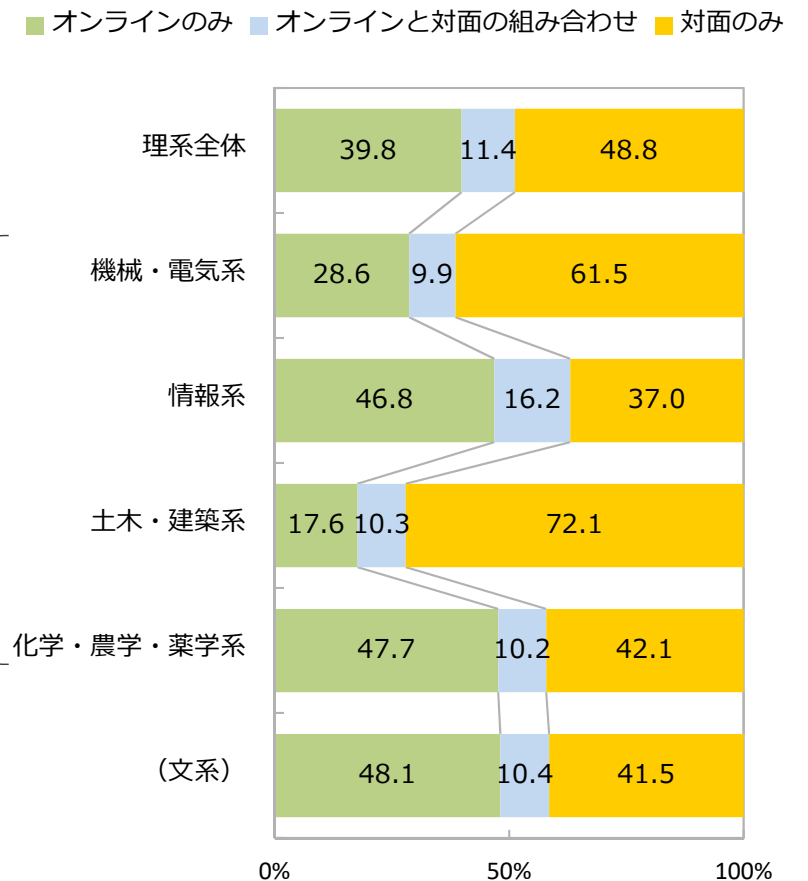
5. インターンシップ等参加状況③(プログラム内容)

- 情報系学生は「グループワーク」の割合が理系の中で最も高く（79.2%）、「職場見学」は低い（29.5%）。
- 土木・建築系は逆に「職場見学」が高く（52.2%）、「グループワーク」は他の専攻分野に比べ低い（50.7%）。
- 機械・電気系は「職場見学」の他、「社員との座談会」も理系の中で最も高い（67.7%）。

プログラム内容



参加形式



6. 序盤の志望業界(11月時点)

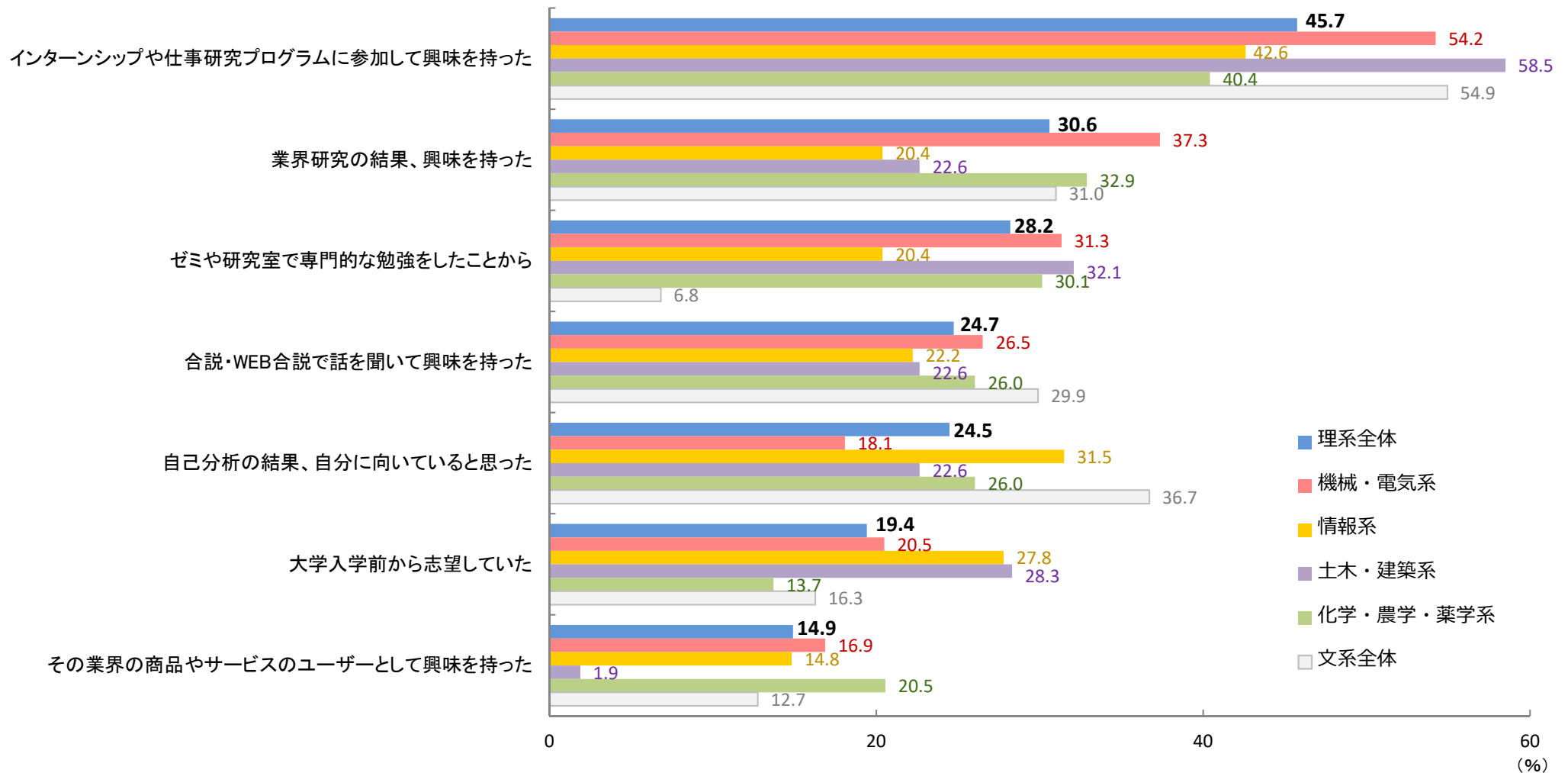
- 機械・電気系学生の志望業界は、「電子・電機」が1位（45.8%）。次いで「機械・プラントエンジニアリング（44.6%）。
- 情報系学生はIT業界に、土木・建築系は「建設・住宅・不動産」にポイントが集中し、専攻分野との関連性が強く表れている。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」（59.6%）、2位「医薬品・化粧品」（46.6%）の順。

※5つまで選択 (%)

理系全体		理系全体				(文系)	
		機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系		
1	素材・化学	28.7	電子・電機 45.8	情報・インターネットサービス 68.5	建設・住宅・不動産 83.0	素材・化学 59.6	銀行 24.6
2	医薬品・医療関連・化粧品	21.3	機械・プラントエンジニアリング 44.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 64.8	エネルギー 18.9	医薬品・医療関連・化粧品 46.6	マスコミ 21.8
3	電子・電機	20.7	自動車・輸送用機器 39.8	通信関連 31.5	運輸・倉庫 17.0	水産・食品 40.4	情報・インターネットサービス 17.6
4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.5	精密機器・医療用機器 31.3	電子・電機 27.8	調査・コンサルタント 15.1	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 15.8	調査・コンサルタント 14.9
5	情報・インターネットサービス	20.2	運輸・倉庫 18.1	調査・コンサルタント 22.2	官公庁・団体	エネルギー 13.0	商社(総合)
6	水産・食品	18.1	エネルギー 14.5	自動車・輸送用機器 16.7	農業・林業・鉱業 9.4	電子・電機 12.3	水産・食品 14.7
7	自動車・輸送用機器	16.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.3	精密機器・医療用機器 13.0	印刷・パッケージ 7.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.3	官公庁・団体 14.1
8	建設・住宅・不動産	14.1	鉄鋼・非鉄・金属製品	商社(総合)	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	調査・コンサルタント	商社(専門)
9	機械・プラントエンジニアリング	13.8	情報・インターネットサービス 12.0	銀行 11.1	水産・食品	自動車・輸送用機器 9.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.8
	素材・化学		エネルギー 9.3	商社(専門)	精密機器・医療用機器	建設・住宅・不動産 12.7	
	精密機器・医療用機器				マスコミ 5.7		
					鉄鋼・非鉄・金属製品		

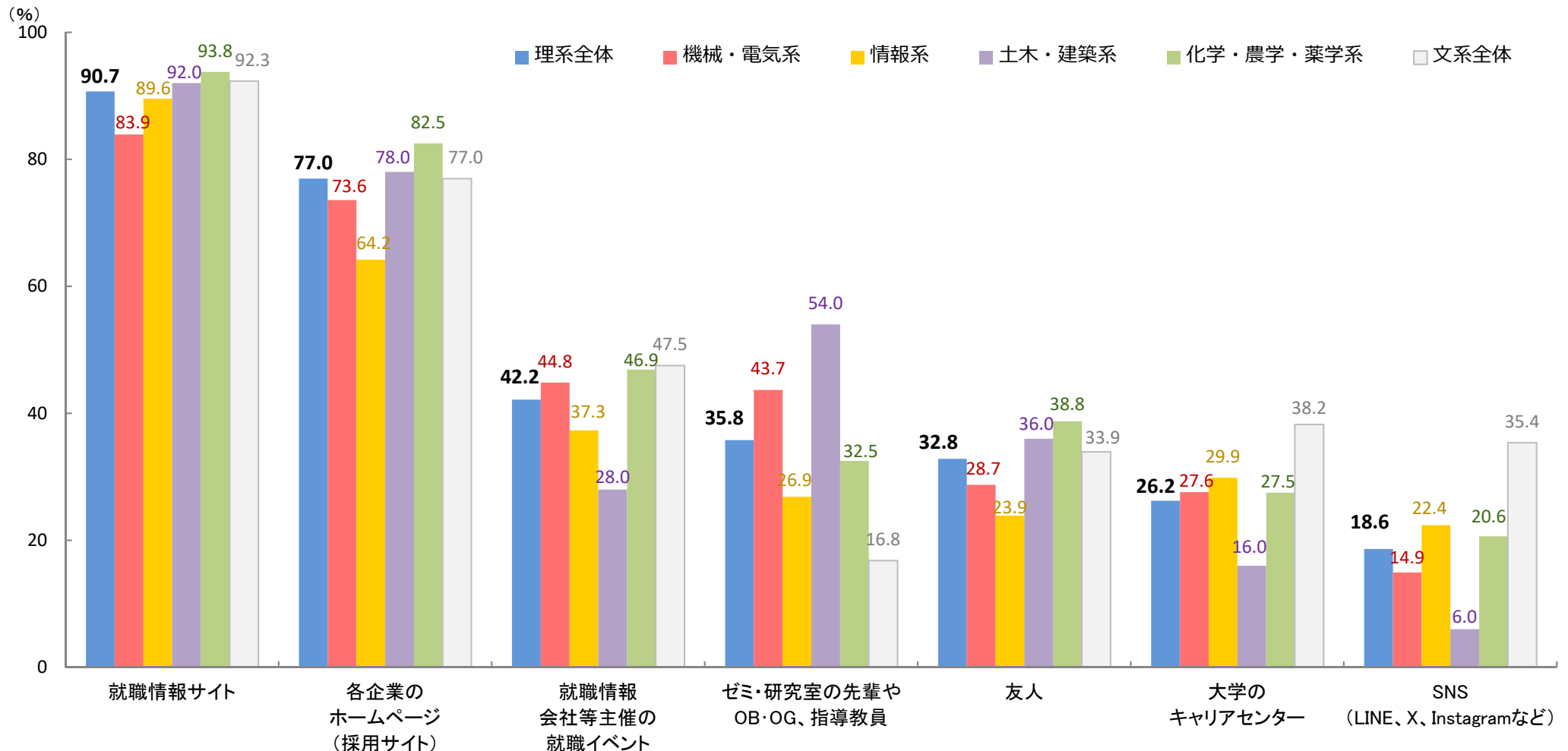
7. 第1志望業界になったきっかけ

- 「インターンシップ等のプログラムに参加して興味を持った」がすべての属性で最多。土木・建築系と機械・電気系で5割超（58.5%、54.2%）。
- 情報系学生は「自己分析の結果」が他より高く（31.5%）、化学・農学・薬学系は「ユーザーとして興味を持った」の割合が高い（20.5%）。
- 機械・電気系は「業界研究の結果」や「合説で話を聞いて」など、就職活動を進める中で決まる割合が比較的高い。



8. 就職活動に関する情報の入手先(1月時点)

- すべての属性で「就職情報サイト」が最も多く、文理や専攻分野によらず広く利用されている。
- 文理差が大きいのは「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」。土木・建築系と機械・電気系で特に高い（54.0%、43.7%）。
- 情報系は「ゼミ・研究室」は2割台にとどまり（26.9%）、「大学のキャリアセンター」や「SNS」のポイントが他の専攻分野より高め。



9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点(1月時点)

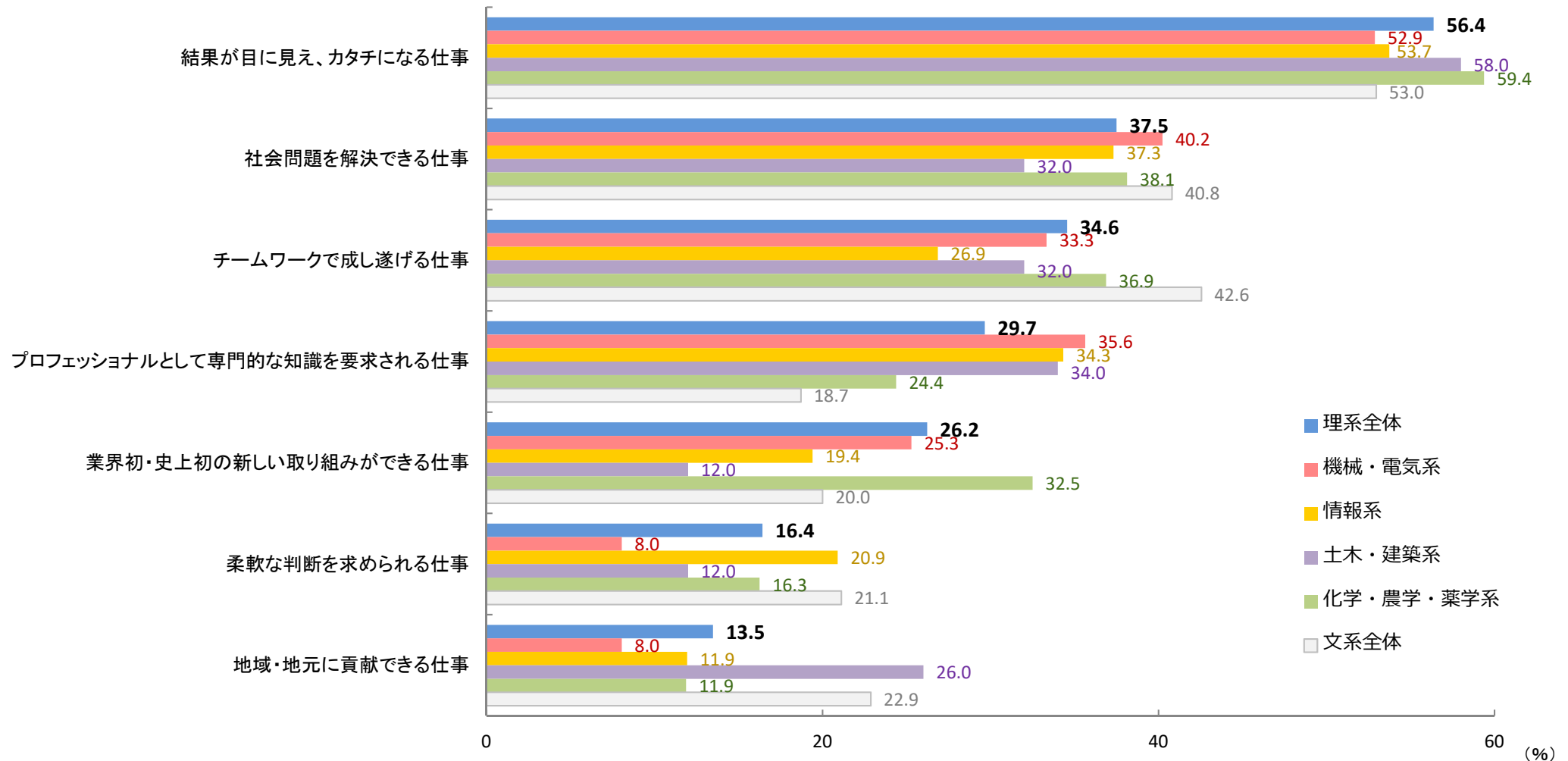
- いずれの属性も「給与・待遇が良い」「将来性がある」が上位2項目。共通して重要な視点となっている。
- 理系の3位は「社会貢献度が高い」。特に土木・建築系、化学・農学・薬学系で高い(3位)。
- 理系は文系に比べ「大企業である」ことを重視する傾向が強い(理系4位、文系9位)

※5つまで選択 (%)

	理系全体					(文系)		
		機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系			
1	給与・待遇が良い	45.6	将来性がある	42.5	給与・待遇が良い	49.3	給与・待遇が良い	45.0
2	将来性がある	43.9	給与・待遇が良い	41.4	将来性がある	43.3	将来性がある	44.6
3	社会貢献度が高い	31.1	福利厚生が充実している	31.0	福利厚生が充実している	32.8	社会貢献度が高い	35.0
4	大企業である	28.2	大企業である	28.7	希望の勤務地で働ける	34.0	職場の雰囲気が良い	33.8
5	福利厚生が充実している	28.2	有名企業である	28.7	休日・休暇が多い	28.4	大企業である	31.2
6	希望の勤務地で働ける	25.7	業界内の順位が高い	27.6	有名企業である	25.4	大企業である	28.0
7	職場の雰囲気が良い	25.5	社会貢献度が高い	23.0	社会貢献度が高い	23.9	業界内の順位が高い	26.0
8	休日・休暇が多い	23.8	希望の勤務地で働ける	22.4	職場の雰囲気が良い	22.4	業績・財務状況が良い	21.3
9	有名企業である	23.5	休日・休暇が多い	20.7	業界内の順位が高い	20.7	福利厚生が充実している	24.0
10	業界内の順位が高い	22.8	業績・財務状況が良い	19.5	業績・財務状況が良い	20.9	職場の雰囲気が良い	18.0
							有名企業である	21.1
							業績・財務状況が良い	18.8
							仕事内容が魅力的	

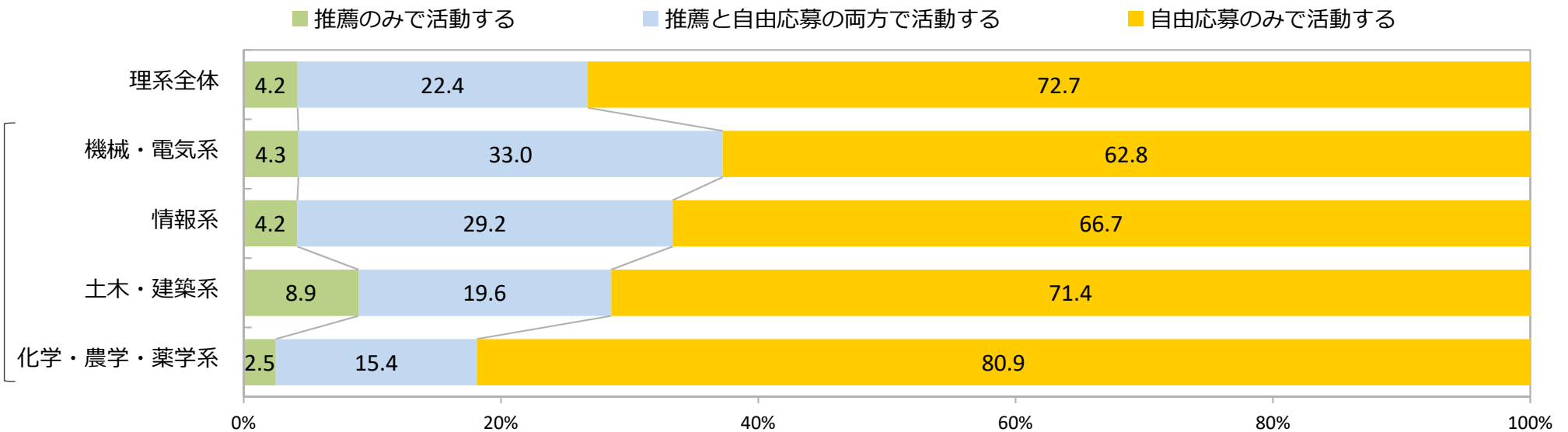
10. 「面白そう」と感じる仕事

- 理系全体で最も多いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」（56.4%）。特に化学・農学・薬学系、土木・建築系で高い（59.4%、58.0%）。
- 化学・農学・薬学系は他に「業界初の新しい取り組みができる仕事」が、土木・建築系は「地域・地元貢献できる仕事」が他の専攻学生より高い。
- 情報系学生は「柔軟な判断を求められる仕事」が他の専攻より高く、機械・電気系は「社会問題を解決できる仕事」が比較的高い。



11. 推薦の利用予定(3月時点)

- 推薦の利用予定者は理系全体の2割強（自由応募との併願含め26.6%）。機械・電気系学生で比較的多く、4割近くに上る（同37.3%）。
- 自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」が最多（29.5%）。土木・建築系と化学・農学・薬学系は3割超。
- 機械・電気系は「できるだけ多くの企業を受けたい」が他より多く（23.0%）、情報系は「推薦で内定が出たら辞退できない」が多い（23.2%）。

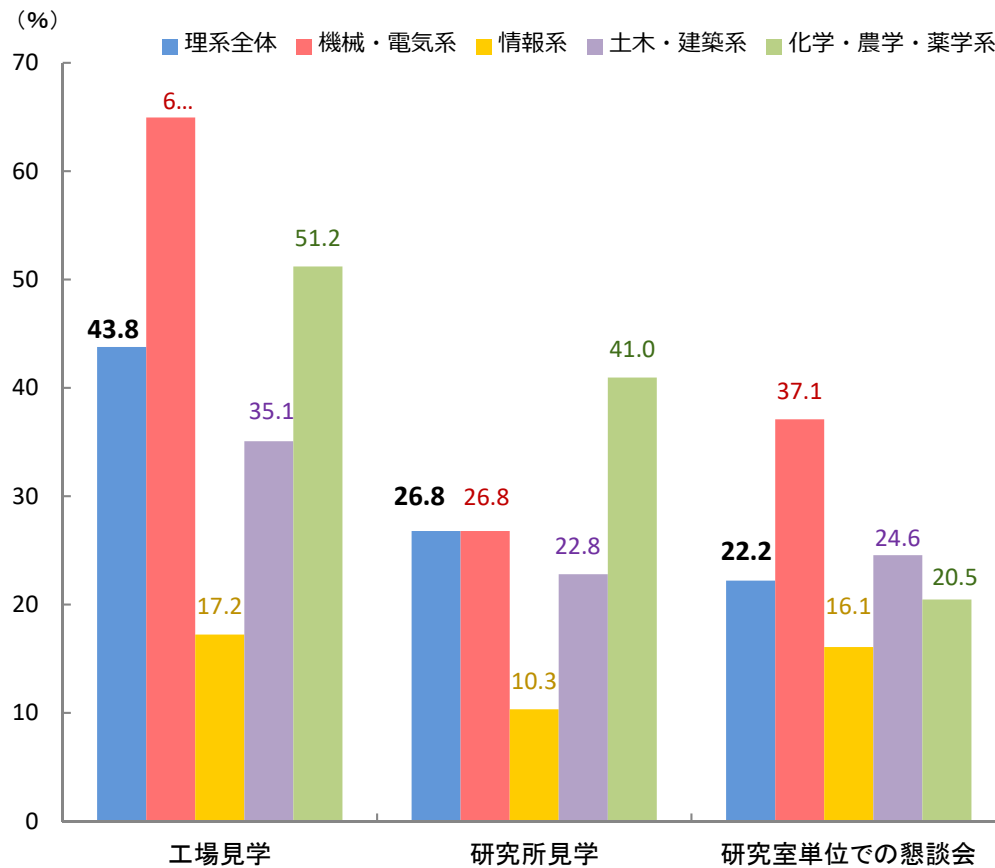


【自由応募で活動をする理由】	(%)				
	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系
希望の企業からの推薦枠がないから	29.5	20.7	26.1	33.3	33.1
自分で就職先を見つけたいから	17.7	18.4	17.4	21.6	16.9
推薦で内定が出たら辞退できないから	16.2	18.4	23.2	13.7	13.0
できるだけ多くの企業を受けたいから	16.2	23.0	14.5	7.8	16.9
推薦で受けても内定が取れるとは限らないから	9.6	9.2	10.1	9.8	10.4
自由応募のほうが先に選考が始まるから	5.7	6.9	5.8	5.9	3.9
文系就職をしたいから	3.2	0.0	0.0	3.9	5.2
推薦枠はあるが学内の競争率が高いから	1.5	2.3	2.9	2.0	0.6
その他	0.5	1.1	0.0	2.0	0.0

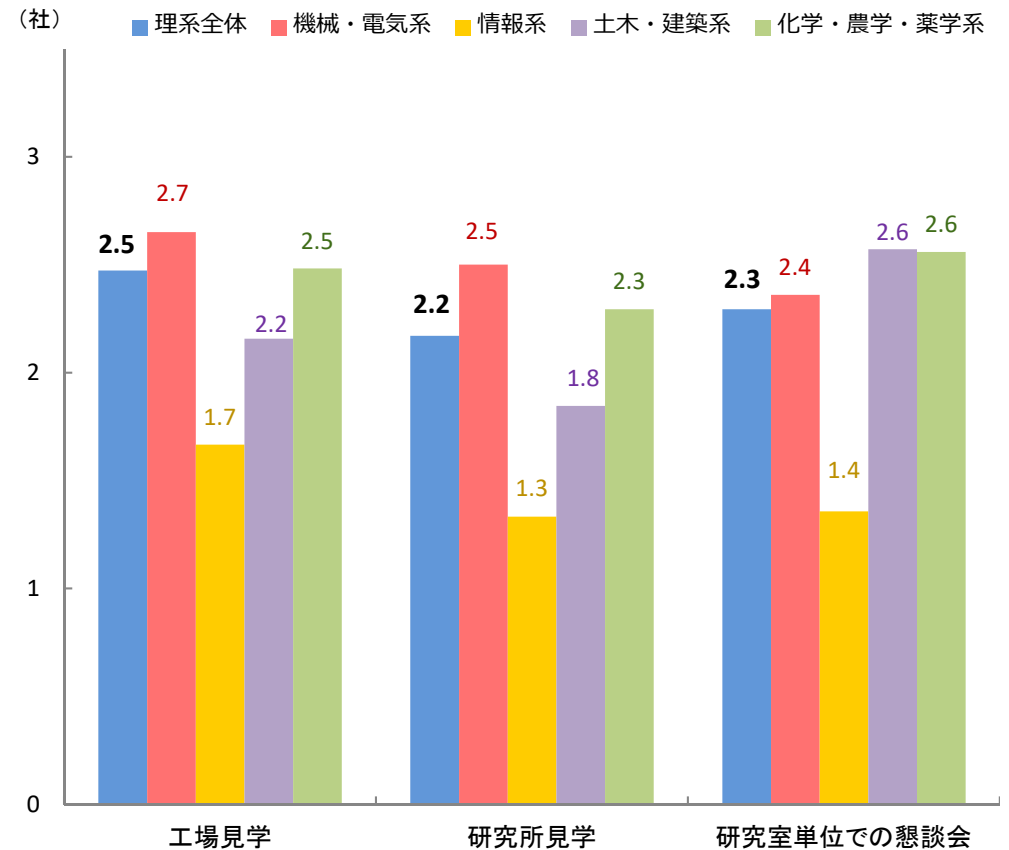
12. 工場見学・研究所見学等の状況(4月時点)

- 工場見学への参加経験は機械・電気系学生で多く、6割以上が参加（64.9%）。参加社数も他の専攻より多い（平均2.7社）。
- 研究所見学の経験は化学・農学・薬学系で多い（41.0%）。参加社数は機械・電気系（2.5社）、化学・農学・薬学系（2.3社）の順。
- 情報系学生は、工場や研究所を持たないIT業界の志望者が大半であることから、経験・社数とも他の専攻分野に比べ少ない。

参加経験



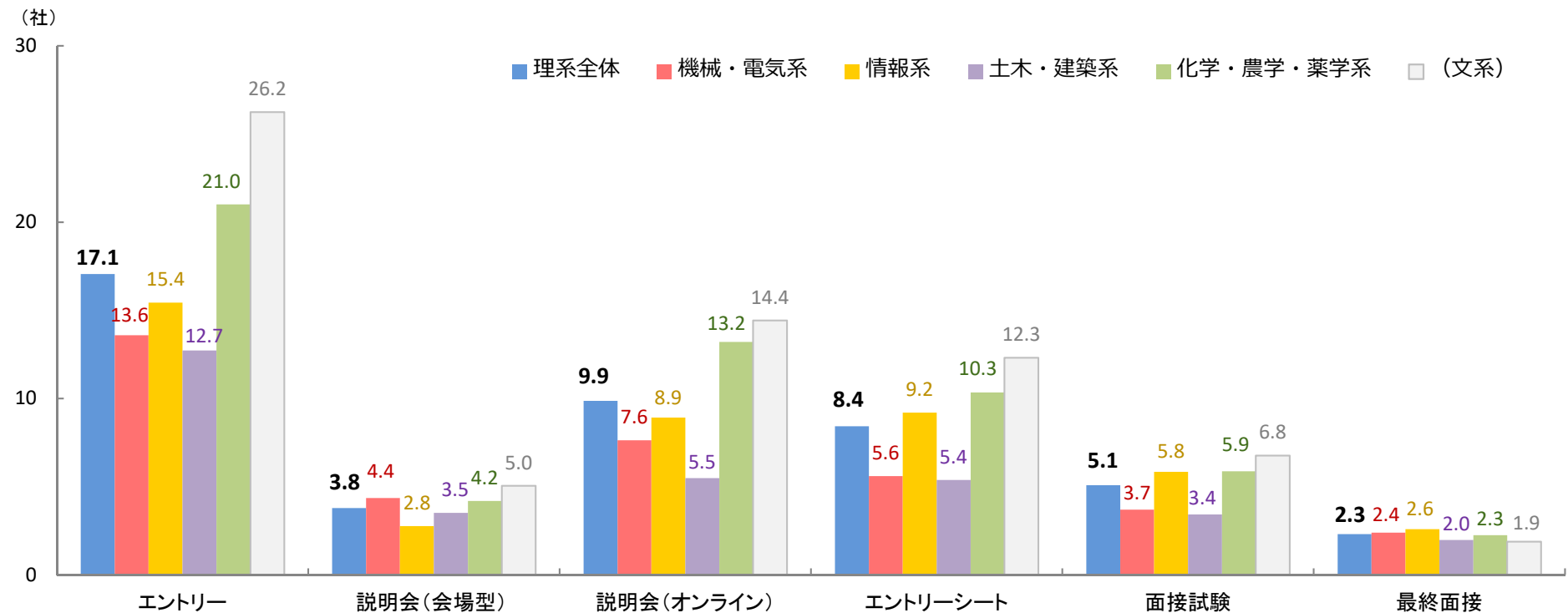
平均社数



※「研究室単位での懇談会」は、研究室の卒業生やリクルーター、人事担当者などを交えた懇談会について回答

13. 就職活動量(経験率と平均社数/4月時点)

- 4月1日時点の理系学生のエントリー社数は平均17.1社。文系(26.2社)より9社少なく、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも、機械・電気系、土木・建築系はエントリー社数、ES提出社数ともに少なく、化学・農学・薬学系は比較的多い。
- 化学・農学・薬学系で最終面接の経験率がやや高い(82.5%)。

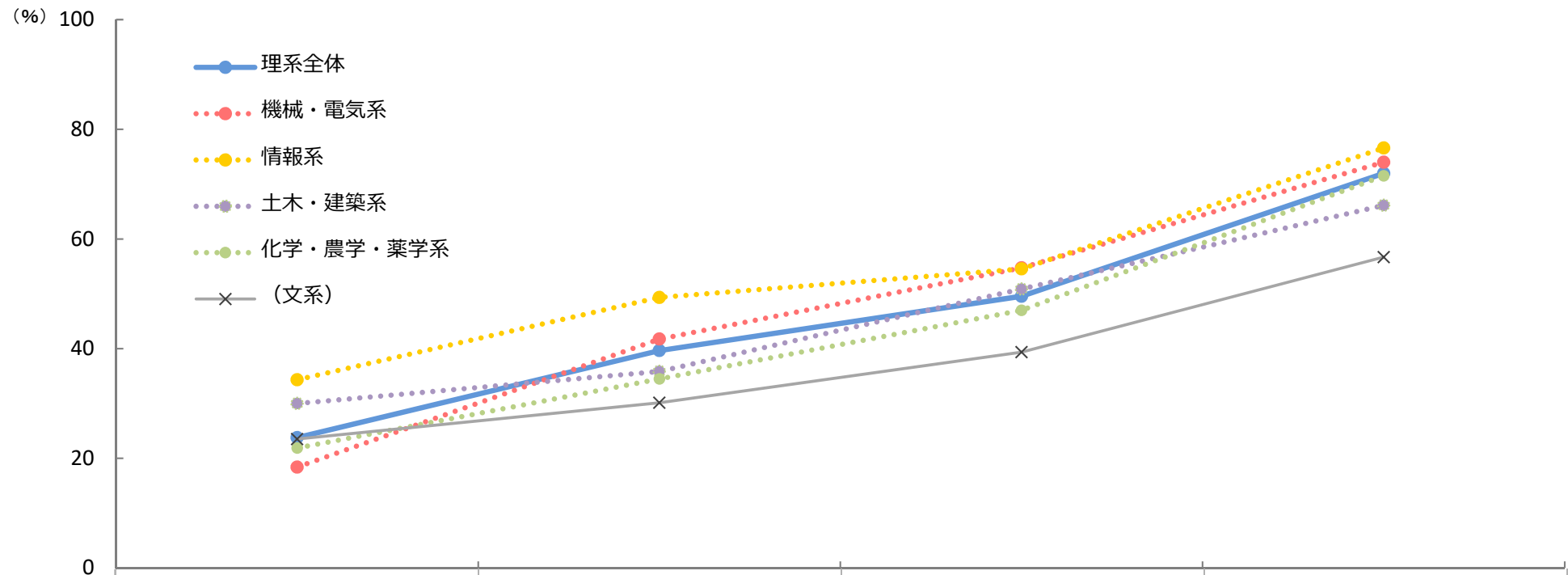


【経験率】

	エントリー	説明会(会場型)	説明会(オンライン)	エントリーシート	面接試験	最終面接
理系全体	94.6	56.2	90.9	91.5	89.6	81.1
機械・電気系	94.9	55.0	87.0	93.0	88.9	81.8
情報系	92.6	46.8	94.7	89.4	89.4	78.7
土木・建築系	90.3	67.7	82.3	83.9	80.3	77.0
化学・農学・薬学系	97.1	57.3	92.4	94.2	93.0	82.5
(文系)	97.4	69.1	93.2	93.6	89.3	67.5

14. 内定率の推移(1月～4月)

- 理系は文系に比べ内定獲得のペースが速く、2月の内定率は9.5ポイント差。4月には15.3ポイント差まで広がった（理系72.0%、文系56.7%）。
- 理系の中でも情報系は早期の内定獲得が目立つ。1月時点で3割強（34.3%）、2月には半数近くが内定を獲得（49.3%）。
- 機械・電気系学生は、1月時点では他の専攻分野より低かったが、2月以降は高水準に。専攻によって内定率が伸びるタイミングに違いが見られる。



	1月1日	2月1日	3月1日	4月1日
理系全体	23.8	39.6	49.6	72.0
機械・電気系	18.4	41.7	54.7	74.0
情報系	34.3	49.3	54.5	76.6
土木・建築系	30.0	35.8	50.9	66.1
化学・農学・薬学系	21.9	34.5	47.0	71.5
(文系)	23.5	30.1	39.4	56.7